

卷末資料

〔II〕参考資料

最後に、参考資料として(1)岩手県南部における古代の土器群編年試案、(2)岩手県南部を中心とした古代の住居跡変遷について提示する。(1)については後掲する第1図、(2)については第2図を参照されたい。これらの表記と記述は、何れも北上川中流域を中心とする一帯における古代の遺構・遺物のあり方を総合的に検討した結果として、本課職員相原康二が集成したものである。

本報告内の各遺跡における遺構・遺物の記述において多くは、基本的にこれら参考資料に基づいて考慮されており、基準資料としても有意義なものである。また、本資料をもって岩手県南地方における古代集落のあり方や遺物の編年観がより明確になされ得たと解釈している。

本資料の作成にあたっては、註記に伺われる如く多くの先学の業績や考古学研究会岩手支部例会における討議内容、そして会員諸氏の個人的研究課題における貴重な集積資料の呈示に負うところが大であることは言うまでもない。先学の学恩並びに会員諸氏の快諾の資料提供及び資料作成におけるご尽力に対して深謝する次第である。

資料1 岩手県南部における古代の土器群編年試案

巻末に掲げた編年表の簡単な説明を行なう。編年にはあたっては「組みあわせ」を重視した。それは器種・技法ともにである。また諸先学の諸業績に従ったのはもちろんである。紙数の関係からその詳細な説明は省き、結論のみを記す。

第I群土器 水沢市高山TK02住居跡、同西大畠遺跡溝跡出土資料。表では併記したが、後者が若干古くなる可能性もある。器種組成の詳細は未詳であるが、器台の不在が特徴的である、南半の塩釜式に類似しよう。

第II群土器 江釣子村猫谷地遺跡の仮称I期の住居跡群(CH74・DA62・CJ50住など)出土資料。これらも器種組成は未詳である。同様に南小泉式のやや古い部分に相当しよう。

第III群土器 水沢市面塚SI02住居跡、同西大畠Cf53住居跡出土資料。後者の組成内容は比較的良好である。報告書によると、長胴甕型に近い甕も存在するらしい。南小泉式の新しい部分であろう。甕型への赤色顔料塗彩が見られる。

第IV群土器 水沢市膳性G15住居跡出土資料。器種組成は不明であるが、内外面赤色顔料塗彩の丸底甕を有する。引田式的な色彩が強い。

第V群土器 同膳性E06住居跡出土資料。甕への黒色処理の開始期とも思われる。肩部無段で、胴部下半に最大径のある甕型が伴なう、南半の住社式に類似する。甕体部にミガキが存在する。

第VI群土器 水沢市今泉・膳性、金ヶ崎町上餅田、江釣子村猫谷地の仮称IIa期その他の出土

資料が該当する。器種組成はきわめて豊富になる。20個体前後が1セットをなす。壺はより大型品が多い。特異な器種の須恵器を伴なう。壺体部には同様にミガキが存在する。栗団式に類似する。

第VII群期 甕型に肩部の無段化、底径の大型化と平坦化の傾向が現われ、壺型に小型化、無段化（沈線化）・平底化の傾向が顕著になる。甕・高壺の存在が少なくなる。二分しうる。

VIIa群 水沢市玉貫の各住居跡、同石田Ci30住居跡他出土資料。先の特徴は既に見えるが、壺に大型品も散見でき、かつ、須恵器が日常容器としてのセットになり切っていない段階。

VIIb群 水沢市石田Dd03、同東大畠、江釣子村猫谷地BF21、同鳩岡崎Ea12住居跡出土資料須恵器が日常容器に組み込まれる段階。須恵器器種は遺跡毎の異同があり一様ではない。本群は宮城県糠塚例に極似し、国分寺下層式に相当し、奈良時代後半～末期を占めよう。

VIIa群は適当な型式名を知らないが、奈良時代前半期のものではあろう。

第VIII群期 類例が激増する。本群にはロクロ使用土師器が共伴はじめる。土師器は甕・壺ともにロクロ使用と不使用のものが混在するが、そのあり方は遺跡により異同がある。まず、ロクロ不使用壺がやや多く、甕はすべてロクロ不使用の長胴・球胴型からなる例がある。壺は無段・平底のロクロ不使用壺・削り調整をもつロクロ使用土師器（回転糸切り）、ヘラ切り・無調整を主とする須恵器などからなる。別の例ではロクロ不使用壺は皆無か、あっても稀少で、甕にはロクロ使用のものも加わる。詳細にのべると、削り調整のあるものを主体とし、若干量の無調整のものを伴うロクロ使用土師器壺と、ヘラ切り・無調整を主体とし、若干量の削り調整（回転・手持ち）をもつもの、および糸切り・無調整の須恵器壺、ロクロ不使用甕、体部上半に叩き目とロクロ成形痕・下半に削り調整痕をもつ土師器甕、須恵器広口壺、同長頸壺、同蓋などからなる。以上の二者からは、ともに高壺・甕は消えており、逆にやや軟質の酸化焰焼成と思われる土器が加わる。これらは平安時代初頭～前半頃と思われるものである。本群以降は遺跡の性格を十分考慮した上で遺物を検討する必要があろう。おそらくはいくつかの類型化が可能であろう。

第IX群期 本群にはロクロ不使用土器は原則的には伴なわない。土師器壺は回転糸切り・無調整と、調整あるもの（回転・手持ち）の両者からなる。土師器長胴甕胴部の叩き目はほぼ消える。他に中型甕・壺などがある。須恵器には壺（回転糸切り・無調整のみ）・甕・蓋がある。技法の全般に省略化、傾向が目立つ。本群には既述の酸化焰焼成と思われる土器が伴なう。これについては既に見解の発表がある（註）。以上は平安時代後半のものと思われる。

第X群土器 以降については不明な点が多く詳述は省き見通しのみをのべる。第X群は所謂須恵系土器を主体的にもつグループであり、壺・台付壺・皿・台付皿・黒色処理の壺・長胴甕・小型甕・壺・耳皿などをもつ。緑釉陶器も共伴する。平安時代後～末期の11世紀代のものと思

われる。

第X群としては詳細未詳であるが、灯明皿的な部厚・粗雑な軟質土器をも有するものが該当しよう。壺・台付壺・皿・甕などからなる。金ヶ崎町西根・鳥ノ海などに比較的良好な資料がある、12世紀以降のものと思われる。経筒と思われる袈裟襷文ある灰釉陶器（常滑焼）を共伴する例もある。

《註記》

本編年試案の作成にあたっては、多くの先学の業績に負うところが大きい。先学の学恩に感謝する。また、考古学研究会岩手支部の例会における討議内容にも負うところが大きい。会員諸氏に深謝する。以下に編年表・に用いた資料の出典を掲げる。

- I群 ①高山遺跡 TK02住 高山遺跡 岩手県水沢市調査報告書第1集 高山遺跡調査会・水沢市教育委員会 昭和53年3月
- 〃 ②西大畠遺跡 溝 西大畠遺跡 岩手県文化財調査報告書第60集 東北縦貫自道車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書X 岩手県教育委員会 日本道路公団 昭和56年3月
- II群 ③猫谷地遺跡 和賀郡江釣子村猫谷地遺跡 岩手県教育委員会 昭和49年3月
実測は佐久間豊氏による。
- III群 ④西大畠遺跡 Cf53住 註②に同じ
- 〃 ⑤面塚遺跡 S102住 現地説明会資料 水沢市教育委員会 昭和55年6月
- IV群 ⑥膳性遺跡 G-15住居跡 | 膳性については(財)岩手県埋蔵文化財センター高橋与右衛門氏から種々
- V群 ⑦ 〃 E-06 〃 | の教示・実測図の提供をうけた。深謝する。
- VI群 ⑧今泉遺跡 Bg 62住他 註②に同じ
- VIIa群 ⑨石田遺跡 Ci30住居跡 同第61集 同 XII 同 同
〃 ⑩水沢市玉貫遺跡の古代の資料のすべて (財)岩手県埋蔵文化財センター資料実見による
山口了紀・吉田洋氏の教示をうけた。
- VIIb群 ⑪石田遺跡 Dd03住居跡 註⑨に同じ
- VIII群 ⑫ 〃 Da56住居跡 同上
⑬林前遺跡 SF22住他 林前遺跡 岩手県水沢市文化財調査報告書第3集 水沢市教育委員会
昭和54年3月
- IX群 相去遺跡 I期 | 相去遺跡については岩手県立博物館高橋信雄氏より種々教示と実測図の提供をうけた。
〃 II期 | なお、氏とは相去のみならず、各群の全般にわたり意見交換を行ない益する所大であった。深謝する。なお、以下の論文がある。
- ⑭高橋信雄 岩手県のロクロ使用土師器について 考古風土記第2号 昭和52年4月
なお、⑭に対する批判的見解として
- ⑮本堂寿一 極楽寺伝座主坊跡緊急発掘調査報告書一付、寺院跡出土土器の再整理とその考察—
北上市立博物館研究報告第3号 昭和55年8月 があるが、ここでは前者にしたがっておく。今後の検討課題とする。
- X群以下については、金ヶ崎町西根・鳥ノ海の個別報告中に詳細にのべられている。
- ⑯西根遺跡 | 岩手県文化財調査報告書第59集 東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財発掘調査
- ⑰鳥ノ海A・B・C遺跡 | 報告書X 岩手県教育委員会・日本道路公団 昭和56年3月